

園だより 春休み

主よ、あなたたちのたどる旅路を見守っておられる。

土師記 18章 6節

幼稚園の桜も開花の時を迎えました。白木蓮は満開が過ぎ朝には花びらの絨毯が広がっていました。それに呼応するように子どもたちは春になったらひとつ大きくなることを感じ何だか嬉しいそわそわの3月でした。

年主題の通り子どもたちは1年間沢山のエネルギーを吸い込み、そして今、成長した子どもたちのエネルギーが園全体を包んでいます。そんな温かさに包まれながら日常の継続的な遊びは年度末という節目に関係なく子どもたちの今の想いを込められながら展開され発展し続けています。年少・中組の子どもたちにとっては年度をまたがり継続されることでしょう。

またこの時期ならではの子どもたちの想いの交流もありました。年少組と年長組、年中組と年長組それぞれに開かれた「ありがとう会」。年少組さんは3月に入ってから和紙を春色に染めお花を作っていました。そして会の当日、年長組さんたちの保育証書授与の練習を見せて貰った後に、年少さんは春色和紙で作ったお花を年長さんの胸に咲かせ、有難うの気持ちを伝えていました。その時のお互いの様子・表情からは言葉で表しつくせない想いが十分に伝わり合っていました。年中組さんはまず、話し合いから始めました。どんな会にするのか、お昼は？プレゼントは？お友達と考え、意見を出し合っていました。「こうしよう」と決まったらみんなの気持ちは「ありがとう会」にまっしぐらです。内緒内緒でのプレゼント作り、会の前日はカレーの野菜切り。年長さんがどんな顔をして喜ぶだろうと、楽しそうにワクワクしながら協力し合い準備をしていました。そして当日は会の進行からお昼の用意まで、全部年中組さんたちが担いました。私たちにも出来るでしょ！と言わんばかりの自信満々な様子、年長組さんからの沢山の有難うの言葉に、気持ちが伝わったことへの嬉しさと共に、もうすぐ年長組になる喜びも感じられました。勿論、内緒のプレゼントも大成功！なんと年長さんからも内緒のプレゼントが！心温まるひとときでした。豊かな成長が感じられた年度末、その今があるのは幼稚園での「遊びの生活」を通し、様々に想いを廻らしながら心を、体験を重ねながら体をそれぞれ十分に動かし、すべて経験を通しての豊かな学びの生活を過ごしてきたからに他なりません。

保育者たちはどのようなときも、子どもたちが自ら考え動き出せる環境を整え、その時そのときのそれぞれの子どもたちにゆっくりと寄り添い見守り、想いを認め共感し、時に一緒に考え、共に過ごして参りました。そこから今年度も幼稚園のテーマである「主体的に生きる」力が育まれました。昨今のライフスタイルの多様性から、園を取り巻く環境の変化に伴い、園内の目に見える部分を見直す今年度でもありました。そんな中、江東YMCA幼稚園が変わって行くのでは？とのお声が聞かれました。幼稚園は変わりません。今の時代に沿いながらも、一番大切な「子どもたちの今の育みを保証する」、保護者の皆様のご理解とご協力のもと「共に育つ幼稚園」であり続けます。今年度のお支えに心から感謝いたしますとともに、これからのお支えも宜しくお願い申し上げます。

園長 駿河 幸子